

2012年版

環境報告書



2013年12月

日東精工株式会社



「私達は、環境にやさしい企業を築くため、

みんなで努力して行動します」

目 次

ご挨拶	2
会社概要	3
環境方針	4
環境管理体制	5
環境目的目標	6
環境目標実績	7
環境活動	8
環境コミュニケーション	10
環境管理コスト	11
環境品質保証	12
省エネルギー活動	13
水質汚濁物質量	14
廃棄物量・リサイクル率	15

報告書の対象範囲

1. 報告書の対象範囲は本社工場、八田工場、城山工場、制御システム工場です。
2. 報告期間は、2012年1月1日～2012年12月31日です。
3. 報告対象は、環境分野です。

表紙:「由良川と新あやべ大橋」
(綾部市並松町)



ごあいさつ

「日東精工(株)環境報告書2012年度」を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本年は、日本ではこれまでに例のない竜巻が頻繁に発生するようになり、各地において甚大な被害が生じております。また、雨の降り方も一昔前とは異なり、ゲリラ豪雨と呼ばれるような短時間に限られた場所に集中して降り方に変わってきているように感じます。我々が行っている経済活動を含む人間の営みによって、地球温暖化に強く影響を与えていると感じざるを得ません。

このような状況下にあつて、更に環境に配慮した取り組みを実践していく必要があります。経済を発展させていくことは大切なことですが、従来と同じ生産活動で成長を目指すことは、温暖化の原因であるCO₂（二酸化炭素）排出量を抑制することにはなりません。私たちの課題は、地球温暖化防止を進めつつ、いかに事業ならびに経済の成長を図っていくかであり、知恵と工夫が求められています。

我が社の二酸化炭素の削減計画は、原単位で1%ずつ削減する目標で計画を進めています。製造工場において、これまでに改善を進めてきましたが、まだ創意工夫により削減できる可能性はあると考えます。アジア圏に関係会社を持つ弊社としましても、日本に留まらず全従業員の知恵と工夫によりエネルギー消費を削減していくことが、生産エネルギー効率を高め、結果として省エネルギーに繋がると信じて進めていきます。

今後も企業の責任として、環境対応商品の開発、並びに、省資源、省エネルギーで『ものづくり』を行い、優れた品質を保ちながら製品の提供に努めてまいります。

2012年の環境報告書では、当社が実践した環境貢献の代表的な事例を中心に紹介しています。私どもの日ごろの事業活動の一端をご理解いただき、取り組みや活動につきまして、ご意見をいただけましたら幸いです。

2013年12月吉日



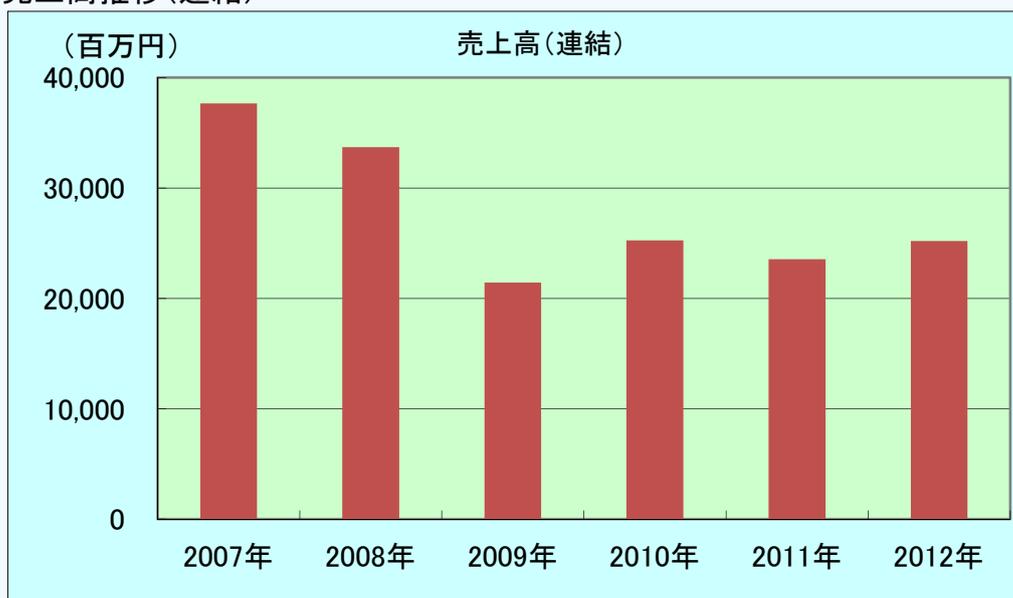
代表取締役社長
材木 正己

会社概要

(平成24年12月31日現在)

社名 日東精工株式会社 NITTO SEIKO CO.,LTD
所在地 本社／623-0054京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地
代表者 取締役社長 塩田 展康
設立 1938年2月25日
資本金 3,522百万円
従業員数 599名
主要生産品目 ねじ類、特殊冷間圧造部品、ピン及びリベット
自動ねじ締め機、自動組立機、産業用ロボット、ドライバ
各種流量計、LPG充填装置、データロガー
地盤調査機、検査選別装置

売上高推移(連結)



国内拠点



環 境 方 針

環 境 基 本 方 針

企業活動を展開する上において、環境保全を最重点とし、地域環境と地球環境を守り、社会と調和して豊かな社会の実現に貢献することを目的とします。

基 本 理 念

地域社会と共存共栄を図り、環境に対しては先手を打ち、環境にやさしい、環境に負荷を与えない取組みを実践し、社会に信頼していただける会社を築いていきます。

行 動 指 針

1. 法的要求事項及び関係するその他の要求事項を遵守し、汚染予防に努めます。
2. 省エネルギー、省資源に努めます。
3. 廃棄物の減量化とリサイクルの推進に努めます。
4. 地球環境に影響を与える物質の削減に努めます。
5. 商品・サービスの提供にあたっては、環境影響に十分配慮します。
6. 環境意識の向上を図り、全員で取組みます。
7. 地域との共栄を図り、社会への貢献と信頼を得るよう努めます。

社 長 コ ミ ッ ト メ ン ト

当社は事業活動として、工業用ファスナー・自動組立機械・計測制御機器等の製造販売を行い、社会に貢献していきます。その事業活動を行うにあたり、環境保全への取組みを企業経営の最優先事項の一つと位置づけ

「私達は、環境にやさしい企業を築くため、
みんなで努力して行動します」

をスローガンに、経営層をはじめ全従業員が地域環境と地球環境を念頭におき、地球温暖化防止、環境負荷と環境リスクの低減に努めます。

1. 事業活動、製品について環境影響評価に基づき、環境管理活動を技術的・経済的に可能な範囲で、全員で取組み、環境目的および環境目標を設定、推進し、汚染の予防と継続的な改善・向上に努めます。
2. 環境保全に関する法令と、当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
3. 地域との共生を図り地域への貢献と信頼を得るよう努力します。
4. 環境方針は掲示し、全従業員と組織で働く全ての人々に環境カードを配布し、周知徹底を図ります。

この環境方針は、社内外に公表します。

2013年 4月 1日

代表取締役社長 材木 正己

ISO14001 認証登録経過

2000年5月 本社工場・八田工場ISO14001:1996認証登録

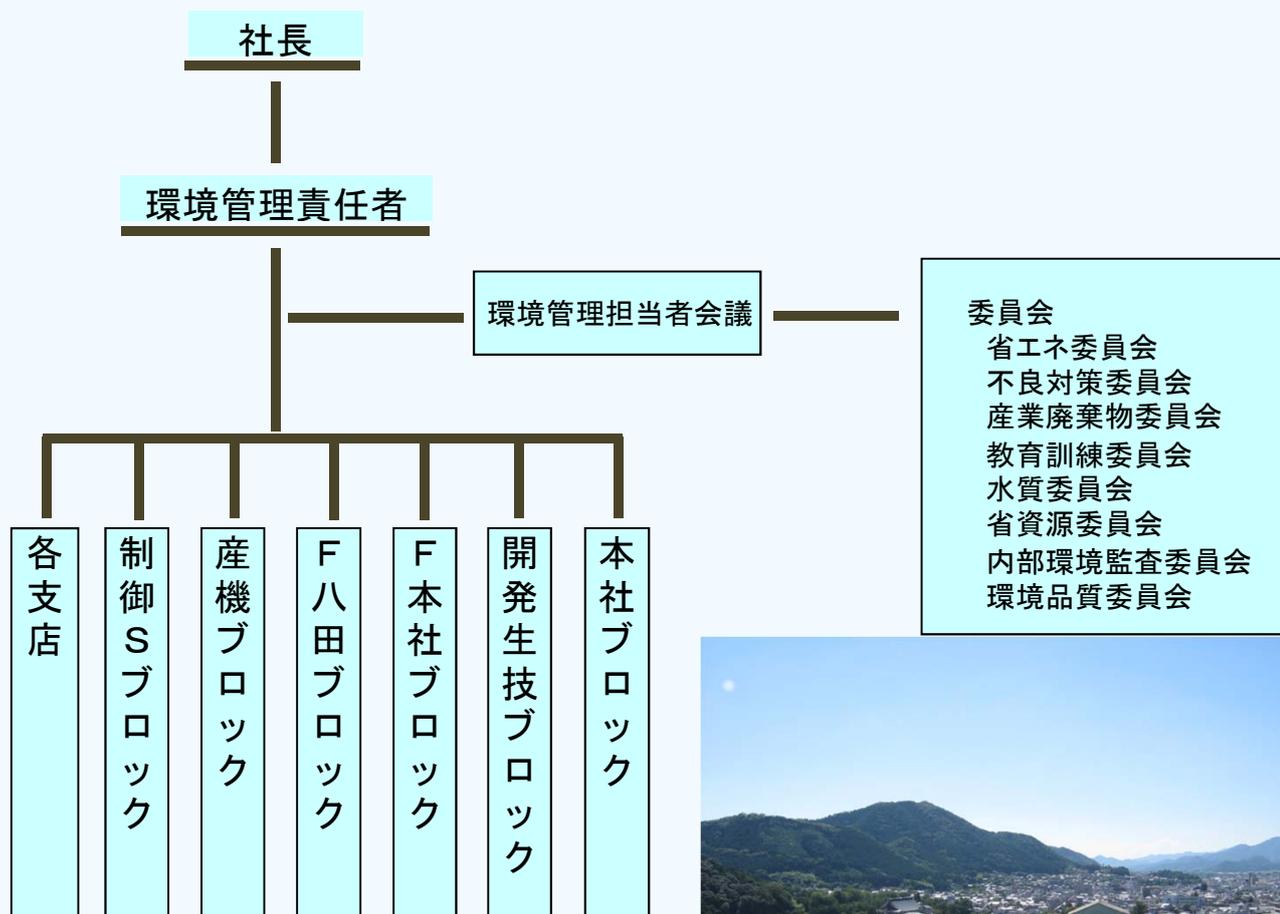
2005年5月 本社工場・八田工場ISO14001:2004移行登録

2008年7月 城山工場・制御システム工場ISO14001認証登録

城山工場と制御システム工場の認証取得により、全ての工場において環境管理システムを推進する運びとなりました。

環境管理体制

社長以下環境管理責任者のもと、各部門において、環境管理活動を展開しています。また全社の委員会として、環境管理担当者会議、専門委員会として各推進委員会を設置し、目的目標の達成にむけた活動を行い、各部門で展開しています。



環境目的目標

日東精工 環境目的

2013年 4月 1日制定

日東精工株式会社の環境目的・目標を以下に定める。

日東精工株式会社
代表取締役社長 材木 正己

環境目的の策定	
環境方針に基づき、2012年から3年間の環境目的を策定する。	
環境目的	
1. 二酸化炭素排出量の削減 ・二酸化炭素排出量	<p>目標 2014年に2011年比 3%削減する 二酸化炭素を237t削減する</p> <p>内訳 ① 電力消費量を62万kWh削減する ② 灯油消費量を2.0kl削減する ③ LPG消費量を2.4t削減する ④ 廃棄物を54t削減する ⑤ 廃アルカリを50%リサイクルする</p>
2. 環境リスクの低減 ・環境リスク要因の削除、改善を図る	<p>① 亜鉛排水濃度を管理する ② 地下汚染防止対策を推進する</p>
3. 環境にやさしい業務を推進する	<p>① 職場環境の整備と美化の推進 ② 3M(ムリ、ムダ、ムラ)の排除を行う ③ 地域環境に配慮した生産活動を行う</p>
2013年 環境目標	
環境目的に基づき 2013年の環境目標を定める	
1. 廃棄・終品不良率、クレーム(社内外)件数を前年度比30%削減する	<p>(1) 廃棄重量を30%以上削減する (2) 終品不良を30%以上削減する</p>
2. 廃棄物のリサイクル化を進める	<p>(1) 廃アルカリを再利用する (2) 廃棄物のゼロエミッションを目指す</p>
3. 環境リスクの低減	<p>(1) 亜鉛排水濃度2mg/l以下を維持する (2) 薬品、油などの漏洩防止、オイルパン設置、漏れ対策を実施する</p>
4. 環境にやさしい業務を推進する	<p>(1) 省エネ、省資源等環境負荷のより少ない生産活動へ改善を進める (2) 工場の美化、不要物の撤去、廃棄物の削減と分別の徹底を図る (3) 3M(ムリ、ムダ、ムラ)の排除を行う (4) 地域や住民に配慮した作業を行う</p>



環境目標と実績

環境目的	2012年環境目標	2012年活動実績
二酸化炭素 排出量の削減	2011年度比3%、81t を削減する。 (総量目標7,808t)	総量実績7,045tで排出比率 90%で目標達成。原単位も1 04%と達成することができ た。
	電力の削減 2011年度比22万kwh 削減する。(総量目標1577万k wh)	総量実績1,387万kwhで目標達成
	灯油の削減 2011年度比0.7kl削 減する。(総量目標364kl)	総量実績386klで目標未達
	LPGの削減 2011年度比0.9t削減 する。(総量目標297t)	総量実績270tで目標達成
	工程不良廃棄量の削減 2011年度比25t削減す る。(総量目標57t)	総量実績99tで目標未達
	産業廃棄物の削減 廃アルカリを50%リサイク ルする。	実績 103.7% 達成率207.4%
環境リスクの 低減	亜鉛排水濃度規制2mg/lを遵 守する。	濾過塔の本格稼働により、亜 鉛の排水基準値を維持管理す ることができました
	地下汚染防止対策を推進す る。	経年劣化した地下灯油タンク を更新をおこないました。
環境にやさしい 業務を推進する	3M(ムリ、ムダ、ムラ)の 排除を行う。	生産における不良削減に取り 組み、エネルギー消費の抑え環 境にやさしい業務となるよう努 めました。
	地域環境・職場環境の整備と 美化の推進	会社周辺の清掃作業や側溝清 掃を実施しました。
JQA審査更新	———	不適合なし 2013年まで更新

環境活動

環境活動

外部監査

4月に更新審査を受審し、不適合はありませんでした。

内部監査

10月に内部環境監査を実施しました。

38部門・各委員会を内部監査による是正を行い、システムの構築を図りました。

環境教育

環境教育実施項目

- ・新入社員教育
- ・管理監督者教育

- ・一般教育
- ・特定業務従事者教育

- ・内部環境監査員教育

防災訓練

高圧ガス保安組織主催による熱処理防災訓練を実施しました。



秋の火災予防週間に合わせて火災訓練、負傷者救護訓練及び薬品漏洩訓練を実施しました。



環境法遵守

法に定められた事項は全て遵守しています。

環境設備	酸・アルカリ表面処理施設、乾燥炉設置届出、塩化メチレン洗浄機廃止など特定施設の届出を行っています。
環境測定	大気、水質、騒音、振動測定を定期に実施しています。全て京都府条例基準を遵守しています。
報告書	エネルギー指定工場、産業廃棄物年次報告、PRTR年次報告、京都府地球温暖化対策条例年次報告など全て届け出を行っています。
廃棄物	一般廃棄物・産業廃棄物は全て適正処理を行っています。

環境リスク

温暖化物質削減への対応

水銀灯及び蛍光灯を、省エネ型照明器具(LED)への更新を進めています。

工場排水

排水処理場における濾過塔の本格稼働により、亜鉛の排水基準及び自主基準値を遵守してまいります。

緊急時対応

火災や薬品の漏洩を想定し、毎年訓練を行っています。

化学物質管理

商品へ影響をする有害物の使用は全廃しました。また、使用材料、購入品からの有害物汚染がないように管理をしています。

環境リスク管理

土壌汚染・地下水汚染、騒音、大気放出などの環境基準の見直しに対応して、維持管理に努めています。

事故・苦情への対応

2012年においては環境の事故発生、苦情の発生はありません。

環境コミュニケーション

○環境報告書は、会社ホームページにて公開しています。

アドレス <http://www.nittoseiko.co.jp/>

○地域連絡会

地域との環境対応を進める目的で、自治会関係者の方々に出席いただき毎年開催しています。

○環境活動

5月に開催される綾部市みどり公社の由良川花壇展に参加しています。

12月に上林地区の森林でモデルフォレスト活動として、間伐の際の伐倒作業の方法等を研修しました。

『あやべ水無月まつり』の翌朝に行われる清掃活動クリーン水無月に参加しています。

○奉仕活動

地域の清掃活動や「あやべ良さ来い」おどり、夏まつりに参加しています。

中学生職場体験



由良川花壇展



モデルフォレスト
リーダー研修会



「あやべ良さ来い」おどりに参加



夏の大会ボランティアスタッフとして参

環境管理コスト

対象期間:2012年 1月 1日~2012年12月31日

(単位:千円)

	投資額	費用額	合計	主な内容
公害防止	194,108	17,693	211,801	大気汚染防止 水質汚濁防止 土壌汚染防止 騒音防止 その他の公害防止
地球環境 保全	29,199	2,145	31,344	地球温暖化防止及び省エネルギー オゾン層破壊防止 その他の地球環境保全
資源循環	0	4,696	4,696	資源の効率的利用 一般・産業廃棄物のリサイクル等 一般・産業廃棄物の処理・処分 その他の資源循環
上・下流				製品商品等の回収、リサイクル、適正処理 その他の上・下流コスト
管理活動	0	15,111	15,111	環境マネジメントシステムの整備、運用 環境情報の開示及び環境広告 環境負荷監視 従業員への環境教育等 事業所及事業所周辺の緑化、美化等
研究開発	16,817	4,153	20,970	環境保全に資する製品等の研究開発 製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発 その他、物流段階や製品等の販売段階等における環境負荷の抑制の ための研究開発
社会活動	0	787	787	事業所及び事業所周辺を除く自然保護、緑化、美化、景観保持等の環 境改善対策 地域住民の行う環境活動に対する支援及び地域住民に対する情報提 供等の各種の社会的取組
合計	240,124	44,585	284,709	

環境品質保証

環境品質保証に関する方針

基本理念

日東精工株式会社は、地球環境の環境保全を優先課題の一つとして強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境問題に配慮して行動し、社会の発展に貢献する。生産に関する部品、材料、製造工程における地球環境への影響を配慮し、環境にやさしい製品の提供を行う。

環境品質保証に関する方針

日東精工株式会社は「顧客に対し最大の満足を提供する」をビジョンとし、事業活動に関わる環境品質保証の物質を以下のように定め使用禁止、全廃を図る。

1. 使用禁止物質

- ①カドミウム及びカドミウム化合物
- ②PBB（ポリブロモビフェニル）類及びPBDE（ポリブロモジフェニルエーテル）類
- ③PCB（ポリ塩化ビフェニル）類
- ④ポリ塩化ナフタレン類
- ⑤有機すず化合物（トリブチルスズ類・トリフェニルスズ類）
- ⑥石綿（アスベスト）
- ⑦アゾ化合物（分解によりアミンは発生する可能性があるもの、人体に持続的に触れることを前提として作られた製品の人体接触部分）
- ⑧ホルムアルデヒド
- ⑨塩化メチレン
- ⑩HCFC（代替フロン）類
- ⑪POPs（残留性有機汚染物質）（PFOA、PFOS等）

2. 全廃物質

- ①水銀および水銀化合物
- ②PVC（ポリ塩化ビニル）及びPVC混合物
- ③PBB、PBDE以外の有機臭素化合物（臭素系難燃剤）
- ④塩素化パラフィン（塩素系難燃剤・可塑剤）
- ⑤鉛および鉛化合物
- ⑥六価クロム化合物

日東精工株式会社は上記環境管理物質に該当する物質が発生した場合、使用禁止、全廃の措置をとる。尚、環境品質保証の全廃の期限を「別紙 環境品質保証全廃・削減計画表」に記し徹底する。この環境品質保証に関する方針は全社員に周知すると共にユーザー先からの要求に対して開示する。

環境品質保証システム

環境品質経営責任者をトップに環境品質保証体制を確立しています。原材料や購入品の調達においては、有害物質が含有しないように、受入検査を実施し、製造工程では、使用する薬品や補助材料、機械装置からの汚染がない仕組みを、出荷検査は、有害物質の含有がないことを保証する仕組みを確立しています。

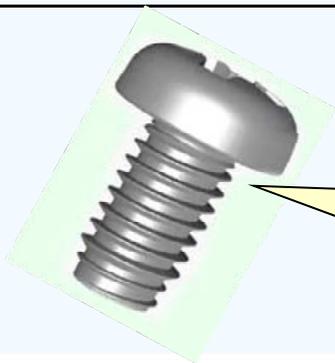
管理項目

- ・取引先との品質環境協定書の締結
- ・購入品の不使用証明書、エビデンスの入手
- ・内部環境品質監査の実施
- ・トレーサビリティの管理
- ・環境品質教育の実施
- ・不適合・是正の管理
- ・法規制及びユーザ基準の遵守

環境品質保証の対象物質

法規制及びユーザ基準に定められた含有禁止物質は使用していません。

- ・ELV・RoHS指令物質
- ・REACH規制対象物質
- ・POPs条約物質
- ・ユーザグリーン調達ガイドラインに定める物質



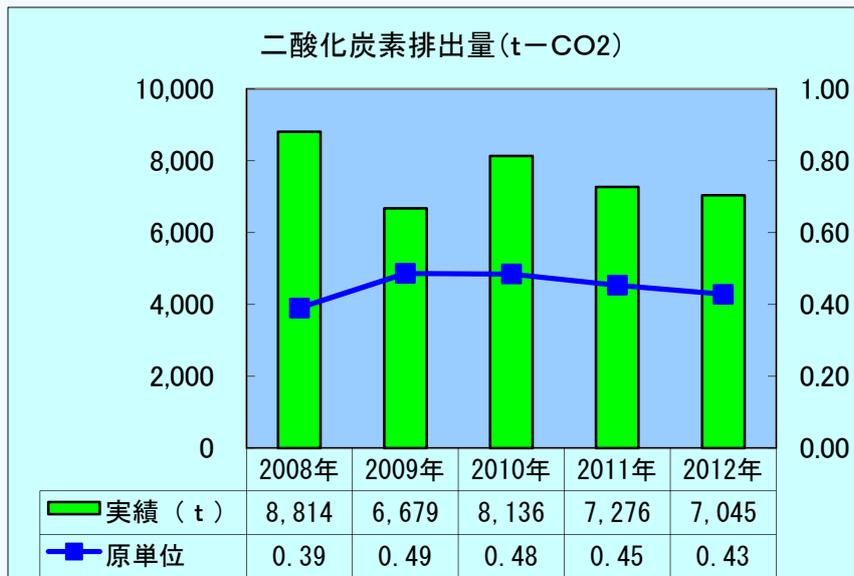
環境品質保証製品の提供

有害物質を入れない、使わない、出さないの「3ない活動」により、環境品質保証製品の提供を御約束します。

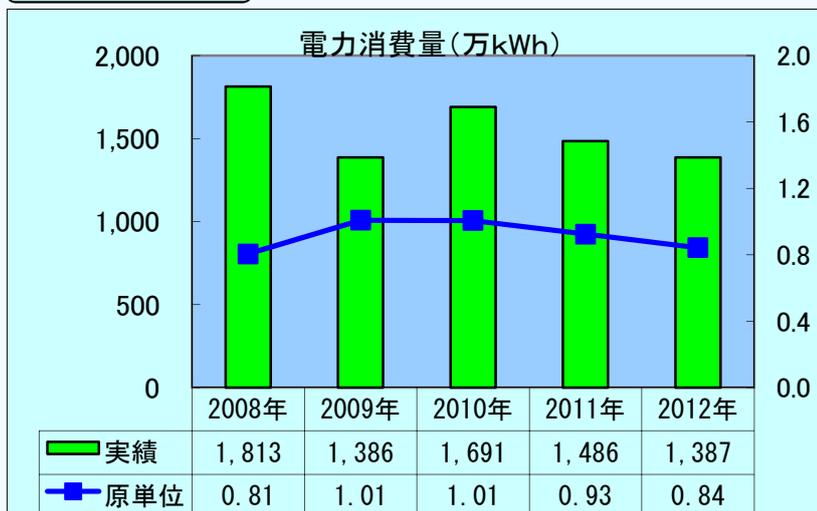
省エネルギー活動

地球温暖化物質の削減を目的として、2012年から3カ年の中期計画で、省エネルギーの推進、ムダなエネルギー消費の削減に取り組んできました。

結果として、二酸化炭素の排出量は前年度比231t-CO₂(同3.2%)の減少となり、中期計画における3年で3%の目標にたいして、初年度で目標を上回る結果をだすことができました。



電力量の削減



2012年は、夏場の電力不足対策として節電にも取り組み、結果として、前年比99kWh(同6.6%)を減少させることができ、原単位も改善することができました。

燃料の削減



2012年度においても、電気自動車を1台導入して燃料消費量の削減に取り組みましたが、結果として、製造工程に装置を導入したことと、冬場の灯油使用量が多かったことが影響し、前年比前56kℓ(同8.2%)増加する結果となりました。

水質汚濁物質量



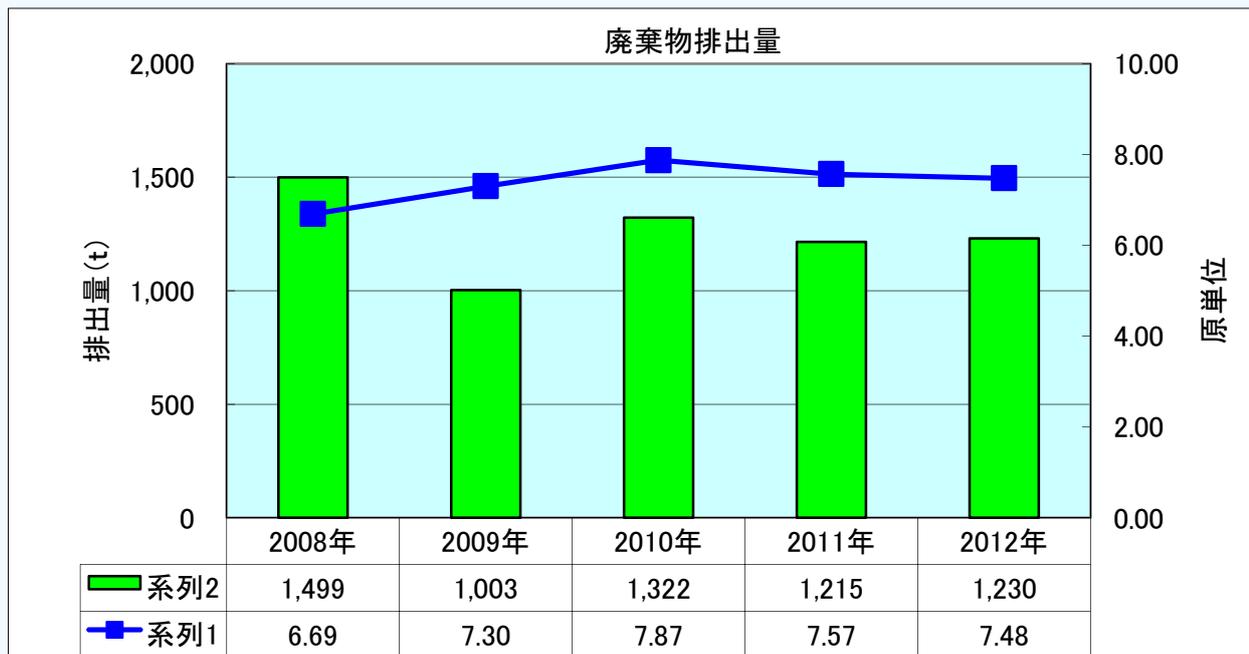
生物化学的酸素要求量BOD値が高い値にはありますが、前年と比較すると低下させることができたことから、汚濁物質量を減少させることができました。売上高は横ばいでありましたが、汚濁物質量の減少により、0.3ポイント改善する結果となりました。

亜鉛については、2016年12月10日まで暫定排水基準の適用期限を延長されましたが、将来を見据えた2ppm対策として濾過器により安定した結果を確認できる状況になりました。また、生物化学的酸素要求量BOD値については、工程排水を除く生活排水の下水道への繋ぎ込みを進めております。

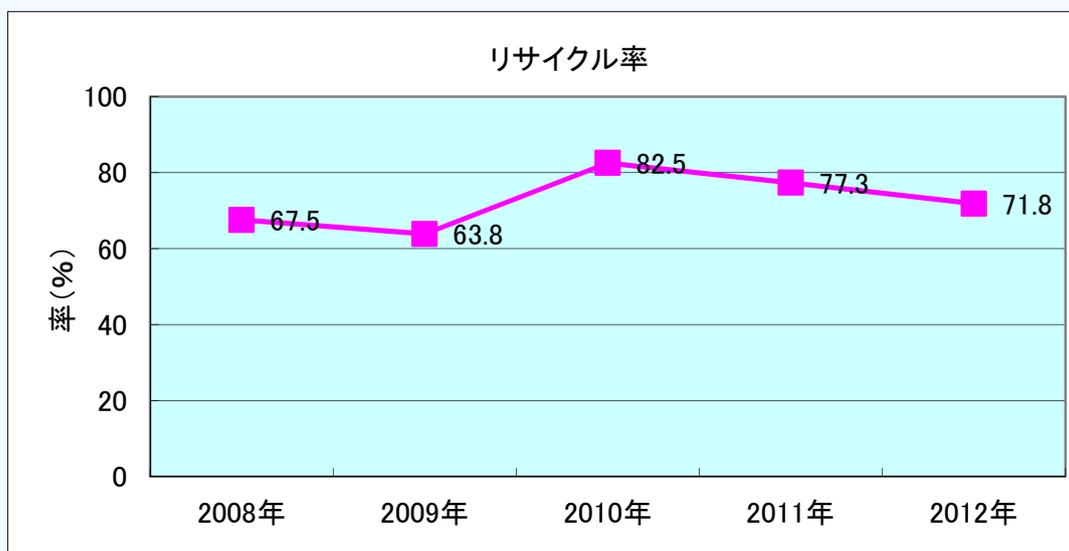
今後も、管理体制を強化し排水濃度基準の遵守を図ってまいります。

測定項目	測定値(mg/l)	
	平均値	最大値
水素イオン濃度(PH)	6.1~7.5	
生物化学的酸素要求量(BOD)	20.2	52.2
浮遊物質(SS)	3.83	7.0
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	2.06	2.30
六価クロム	0.01	0.01
全クロム	0.05	0.40
亜鉛	0.74	3.36
ニッケル	0.26	1.41
銅	0.02	0.25
溶解性鉄	0.43	1.19

廃棄物排出量



生産工程から排出される廃棄物の削減に取り組みましたが、結果として微増となりましたが、原単位では0.05ポイント改善することができました。



2012年2月にめっき工場において、不純物混入によるめっき液の大量処分したため、リサイクル率が低下しました。今後においては、廃棄物を削減する、リサイクル率を高めるという意識を業務の中で高めて取り組んでいきます。

国内拠点

本社	〒623-0054 京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 TEL(0773)42-3111
ファスナー事業部 本社工場	〒623-0054 京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 TEL(0773)42-8020
ファスナー事業部 八田工場	〒623-0116 京都府綾部市下八田町菩提10 TEL(0773)42-3125
産機事業部 城山工場	〒623-0003 京都府綾部市城山町2 TEL(0773)43-1550
制御システム事業部	〒623-0041 京都府綾部市延町野上畑30 TEL(0773)42-3151
開発研究所	〒623-0054 京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 TEL(0773)42-4402
海外戦略部	〒623-0054 京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 TEL(0773)43-0290
東京支店	〒223-0052 横浜市港北区綱島東6-2-21 TEL(045)545-3313
北関東営業所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1221-3 TEL(0276)63-8158
大阪支店	〒578-0965 東大阪市本庄西1-6-4 TEL(06)6745-8357
名古屋支店	〒465-0025 名古屋市名東区上社5-405 TEL(052)709-5061
九州出張所	〒812-0897 福岡市博多区半道橋1-6-46 TEL(092)411-1724

日東精工株式会社

ホームページ
環境報告書に関する
お問い合わせ先

<http://www.nittoseiko.co.jp/>
生産技術部環境整備課
e-mail:kankyo@nittoseiko.com

